

KYO

AMA◇HARE

工藝とアートを扱う白金のブランド「雨晴/AMAHARE」が京都に。  
「KYO AMAHARE」オープンのお知らせ



オモビト株式会社（富山県高岡市、代表取締役社長：中村正治）は、2023年11月23日（木・祝日）、京都に新たな拠点となる「KYO AMAHARE」をオープンいたします。

「雨の日も晴れの日も心からくつろげる暮らし」を、関わるすべての皆様と考え、作りたいと願うブランド、雨晴。2015年に東京白金台に創業し、以来、日本の美しい工藝を通じて、同じ価値観を共有する多くの方々とコミュニケーションをとってまいりました。

陶器に磁器、ガラス、木工から金工、布製品に至るまで、現代に生きる多くの作家たちと暮らす人たちとの間を繋ぎ、くつろげる暮らしの空間を創造する一助になればという思いは、開業当初と変わりありません。

そんな「雨晴」が、初めて東京の外に店を構えることとなりました。選んだ場所は京都です。舞台となるのは、錦市場の一本北の筋、築110年を超える伝統的な京町家。考え抜かれた昔の空間設計や当時の職人たちに敬意を払いつつ、過去と今が共存するコミュニケーションの場になることを目指し、新たな造作と意匠を創造いたしました。3つの庭を抱えるこの町家は、京の中心地にありながら「雨の日も晴れの日も」自然を感じることで心地よい場所。風や光、雨を尊び、感謝する心を取り戻せる、そんな「KYO AMAHARE」で過ごす時間を、今後多くの皆様にお楽しみいただけたらと思っております。また2024年春には、茶房「万 yorozu」の「茶師」徳淵卓氏とのコラボレーションによる新しい茶房を蔵内に開業する予定です。

新たに産声をあげる「KYO AMAHARE」に、ぜひお運びくださいませ。



# KYO

AMA◊HARE



## ■KYO AMAHAREについて

### <場所>

錦市場の一本北の筋にある築110年という歴史を持つ京町家で「KYO AMAHARE」は産声を上げます。京都にも「雨晴」の世界観を体現する空間を求めて、ずっと探しておりましたところ、とあるご縁からこちらの町家をご紹介いただきました。「雨晴」が大切にしているもの、それは日本人のDNAに息づいている自然観。この町家に初めて足を踏み入れた日、3つの庭を宿した広い空間には、古都の香りをかすかに含む心地よい風が流れていました。四条という京都の中心地にありながら、この町家の中には静寂が満ちており、庭からは風や光、そして雨を感じることができます。

100年以上昔の職人たちや家主の思いを、今こうしてリアルに受け止めた時、日本文化の神髄が今も京都にあると改めて知り、この土地や人から大切なことを学びたいという思いから、この場所での開業を決意しました。

### <モノ・コト>

白金台「雨晴」では、日用的な工藝を中心に不定期でアートを取り扱いしておりますが、「KYO AMAHARE」では工藝の延長線上にあるアートを雨晴としては初めて常設的にラインナップいたします。ギャラリー／ショップとしては広大な母屋の1階を「雨晴/AMAHARE」、2階は「雨晴」が手掛けるアートプロジェクト「雨跡/AMART」とし、普段は常設展示をいたしますが、定期的にそれぞれの空間で展覧会を開催いたします。200㎡の空間を持つ京町家に並ぶのは、現代の暮らしでは曖昧になりつつある「霽れ(晴れ)」と「褻(雨)」を意識した作品群。常設品のほか、「霽れ」を意識した茶道具や懐石料理のうつわなども取り揃えました。

### <空間>

白金台「雨晴/AMAHARE」に続き、「KYO AMAHARE」でも「TONERICO:INC.」に設計を依頼しました。京都在住の和紙作家、ハタノワタル氏による和紙を貼った階段が、空間に優しさと気品をもたらしています。

屋久杉が天井に貼られた小間、華奢で色気のある梁で構成された通り庭、広間の先に見える京都らしい佇まいの庭。耳を澄ませば、数奇者の家主と名大工が交わしたであろう当時のやりとりが聞こえてくるような空間です。気品あふれるこの場に、新たな意匠や素材を組み合わせつつ、唯一無二の価値観を未来に継承いたします。





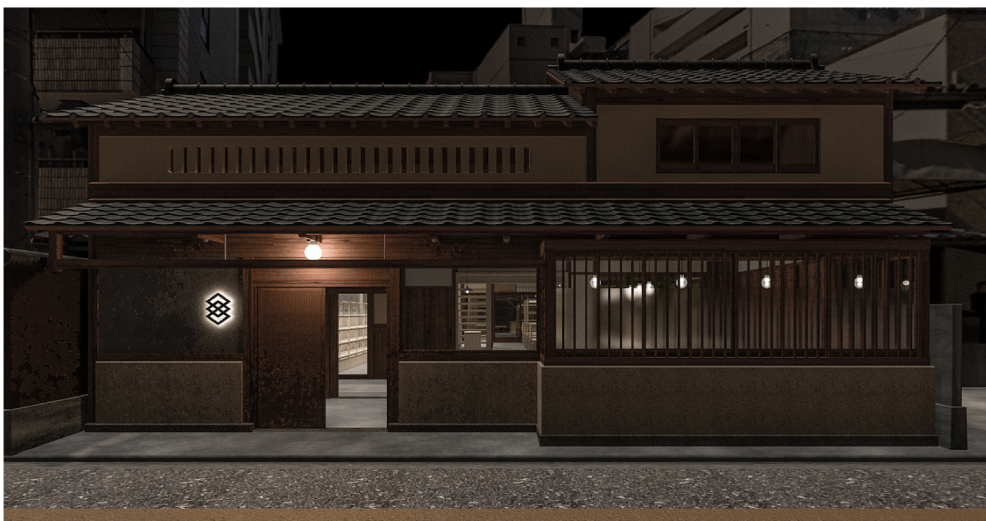
# KYO

AMA◊HARE



## <茶房>

敷地内には、古い蔵が残されていました。こちらに2024年春、新たな茶房「居雨（きょう）」が誕生します。「居雨」は「雨晴」による造語であり、「雨と共に居る（過ごす）場所」という意味を込めました。この空間で、お客様に実際にお使いいただき、心を満たすようなうつわを、心を込めてセレクトいたします。メニュー開発や飲食展開を担うのは、福岡・赤坂で内外から注目される茶房「万 yorozu」の徳淵卓氏。「万」にとっても、コラボレーションによる福岡外での展開は初の試みとなります。茶房ではありますが、福岡のお店と同様に、魅力的なお酒のメニューも予定しております。また、名パティシエとして名を馳せつつも、2023年に実家である福井県の菓子匠「昆布屋孫兵衛」に戻り17代目として新たな道を歩み始めた昆布智成氏が、茶房で提供するお菓子の一部を製作することが決定いたしました。数々の異色キャラクターが集うことによって生まれる、新たな茶と酒の空間に、どうぞご期待ください。



KYO AMAHARE

〒604-8063 京都府京都市中京区蛸薬師通柳馬場東入油屋町127番地 TEL：075-256-3280

IG：[https://www.Instagram.com/kyo\\_amahare/](https://www.Instagram.com/kyo_amahare/)

WEB：<https://kyo.amahare.jp/>

## 「KYO AMAHARE」に関するお問い合わせ先

オモビト株式会社 雨晴事業部 金子憲一  
03-3280-0766 [info@amahare.jp](mailto:info@amahare.jp)

※南陽オモビト株式会社は、2023年8月4日よりオモビト株式会社となりました。